

マスコミが隠蔽する 宮崎県の口蹄疫被害の真実

「対応は十分行っている」と発言する民主党政権。「宮崎県の対応が遅かった」と偏見報道を流すマスコミ。

日本のマスコミが報道しない口蹄疫の真実をあなたは知っていますか？

政府がFAOの専門家チームの派遣を拒否

5月21日、ローマ共同の調べで、日本政府がFAO（国際連合食糧農業機関）が提案した宮崎の口蹄疫対策の専門家チームの派遣を断っていることが発覚しました。

Gov't to compensate farmers for losses due to foot-and-mouth disease

<http://mdn.mainichi.jp/mdnnews/national/news/20100521p2g00m0dm040000c.html>

(一部抜粋)

Meanwhile, the Japanese government has declined a proposal by the U.N. Food and Agriculture Organization to send an expert team to contain the escalating infection in Miyazaki.

(翻訳)

一方、日本政府は、宮崎で拡大している感染症対策の専門家にチームを派遣するという国連食糧農業機関による提案を断りました。

国連も懸念している宮崎の口蹄疫

宮崎の口蹄疫は日本国内の問題ではありません。効果的な対策を行い、海外へ口蹄疫のウイルスが広がらないようにする必要があります。そのため、日本政府は全力を注いで口蹄疫対策を行う必要があります。

口蹄疫 封じ込め徹底を — NHKニュース —

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20100526/k10014684491000.html>

(一部抜粋)

ローマに本部があるFAOで家畜の感染症対策に当たっているルブロス主席獣医官は25日、訪問先のパリでNHKのインタビューに応じました。この中でルブロス主席獣医官は、宮崎県内で口蹄疫の感染が拡大している事態について「世界的にみても過去10年間では最大規模の発生となっている」と述べ、感染がほかの国にも広がらないよう、国連としても重大な関心を寄せていることを明らかにしました。そのうえで日本政府に対して、感染を封じ込めるため、宮崎県内だけでなく全国規模で対策を徹底するよう求めました。さらにルブロス主席獣医官は、「国連として日本に対し専門的な支援を行いたい」と述べ、日本政府から要請があれば助言のために国際的な専門家を派遣する考えを示しました。これについて農林水産省の担当者は、NHKの取材に対し、「今は日本としても感染対策を懸命に行っているところであり、今後、必要であれば受け入れを検討したい」と述べ、FAOに対し、現段階では専門家を受け入れる考えはないと伝えたことを明らかにしています。

その他の世界の常識では考えられない日本政府の対応(一部)

- ・政府が消毒薬を1箱も配布せず
- ・口蹄疫発生確認後に赤松農水相が外遊
- ・口蹄疫の対応に追われる宮崎に選挙応援の要請
- ・首相、農水相が現地視察を行わず
- ・赤松農水相が外遊帰国直後、栃木の議員の会合に参加
- ・国会で口蹄疫について説明する野党議員に野次

これらの情報は本来ならば日本語に翻訳されて公開されるはずですが、何故か翻訳されていません。当然、テレビ・新聞で報じられることもありません。

テレビ・新聞の口蹄疫の報道は非常に偏っています。宮崎県に責任があるかのような偏見記事も多く、また公にされていない情報も多く存在しています。